

科目名称(Course Title)				担当教員 (Instructor)	
社会調査論				佐藤 充	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>社会調査は、日々変化する社会がどのような状況にあるのかを明らかにし、また社会が直面する問題がいかなる要因によって生じているのかを検討するための有力なツールである。現代社会では、幅広い目的のもとで、大学のみならず行政や企業等により、さまざまな社会調査が実施されている。</p> <p>本講義は、社会調査の基本的事項（社会調査の目的、歴史、方法論、調査倫理、各種調査の手法、収集データの分析など）を学習して、自らで調査を企画・実施し、収集したデータの分析を行うための基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>① 社会調査の基本的な考え方を理解して、的確な方法で適切に調査を企画・実施し、収集したデータを分析できるようになる。</p> <p>② 社会調査を実際に行うために必要となる調査倫理を身につける。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	イントロダクション 現代社会と社会調査				
第 2 回	社会調査とは何か				
第 3 回	社会調査の歴史				
第 4 回	社会調査における倫理				
第 5 回	社会調査の対象と方法				
第 6 回	既存の資料・データ収集と活用				
第 7 回	調査票調査の方法（1） 調査のプロセスと方法				
第 8 回	調査票調査の方法（2） 調査票の設計				
第 9 回	調査票調査の方法（3） サンプルングの理論				
第 10 回	調査票調査の方法（4） 調査票調査のデータ化作業				
第 11 回	調査票調査の方法（5） 調査結果の分析				
第 12 回	質的調査の方法（1） 調査のタイプと考え方				
第 13 回	質的調査の方法（2） インタビュー調査とフィールドワークの技法				
第 14 回	質的調査の方法（3） 調査結果の分析				
第 15 回	全体のまとめ より良い調査を行うために				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>① 各講義の最後に、次回までの小課題と予習の範囲を指示する。</p> <p>② 講義前には、小課題に取り組むとともに、教科書の指定された範囲を読むこと。</p> <p>③ 講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。</p> <p>④ ニュースや新聞記事等に目を通し、社会調査データの結果や解釈に注目しておくこと。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法	評価基準
期末レポート (60%) 小課題 (30%) 講義での発言 (10%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、論理的かつ客観的に優れた説明ができる。 優：概念やフレームワークを適切に用いて、論理的かつ客観的に説明ができる。 良：概念やフレームワークを用いて、おおよその説明ができる。 可：概念やフレームワークを理解し、最低限の説明ができる。 不可：概念やフレームワークが理解できず、説明ができない。
テキスト (Textbook)	【書名】 新・社会調査へのアプローチ 論理と方法 【著者】 大谷信介ほか 【出版社】 ミネルヴァ書房 【出版年】 2013年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	各講義のなかで、適宜、参考文献を提示する。
備考 (Other Information)	受講にあたっては、統計学を履修していることが望ましい。 講義に3分の2以上出席しなければ定期試験は受験できません。 講義中は、できるだけ、積極的な発言を求めます。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	配布するレジюмеに記載された連絡先に連絡すること。